

鳥取県の将来ビジョンの骨子の作成に向けての検討資料

1 鳥取県の将来ビジョン策定の趣旨

- 現在、鳥取県は総合計画を持っていない。これに対しては、財政の硬直化を回避する等の意味もあるが、将来に対する夢が持てないとか、県民が何を目指していけばいいのか解らないといった声もある。そういう意味で、現在は、方向性を失った羅針盤が無いような状況である。
- 鳥取県が地域間格差で悩んでいる現状から脱却し、県民ひとりひとりが豊かさを実感できるよう、中長期的な将来像、鳥取県の近未来の姿を県民と一緒に考え、共有する。

2 鳥取県の将来ビジョンの性格

- 中長期的な県の課題や、目指すべき姿の共通認識を作り上げ、その実現に向けた取組みを明らかにするもので、今後の県政運営の基本とするもの。
- また、県民の皆さん、企業、住民団体、大学、市町村等の様々な主体と連携・協働して地域の発展に向けて取り組むための共通の指針となるもの。
- 策定された将来ビジョンは、毎年度の予算編成の中で、具体の施策・個別の事業を県民とともに作り上げていくための依るべき指針とする。

3 対象とする期間

概ね10年後の鳥取県の将来像

4 将来ビジョンを考えるに当たって

→ 鳥取県を再認識し、「鳥取県らしさ」を考える。

- (1) 鳥取県の厳しい現状を認識するとともに、「良いところ」、「誇りを持てるところ」や、鳥取県の特徴を再認識する。

- 人口の減少や、県民所得の状況、経済状況、財政状況など、鳥取県を取り巻く現状は、厳しい状況にある。
- そのような鳥取県の厳しい現状を認識する一方で、豊かな自然、温泉、歴史、芸術文化、食、建築物、伝統技能等をはじめとして、日頃気付かないところ、当たり前と考えているものの中にも「良いところ」や「誇りを持てるところ」がある。
→ それらを改めて再認識する。
- 鳥取県は、
 - ・人と人、人と地域との結びつきが強く、「顔が見える関係」である。
 - ・農家人口が県民の4分の1近くを占めている。
 - ・人口は少ないが、コンパクトであり、コミュニケーションやネットワーク形成が容易である。
 - ・二十世紀梨、らっきょう等を始めとする農業や、境港に代表される水産業のほか、氷温のような特色のある技術や、集積度が高い電子部品・デバイス製造業、情報通信産業などのように、多彩で特色ある産業が立地している。

など

(2) 鳥取県が「豊か」であることを再認識する。

※鳥取県と都会とを比べたとき、企業・経済活力や財政力は弱く、十分とは言えないが、生活はどちらが「豊か」であるのか。
→ 鳥取県の「豊かさ」を再認識する。

- 鳥取県における生活環境の良さ（空気・水のきれいさ、自宅周辺の道路の整備状況、環境衛生（ゴミ、下水道等）の良さ等）
- 鳥取県は、人と人、人と地域との結びつきが強く、「顔が見える関係」。
- 鳥取県では、職住が近接している、時間に追われていない。

など

(3) 「生活の豊かさ」が実感できるよう、
・豊かに暮らす「スローライフ」的な視点を持った地域づくり
・「観光」「農業」「教育」を核としたわき上がるような活力がある地域づくりを念頭に置く。

●豊かに暮らす「スローライフ」的な視点を持った地域づくり

- 県民それぞれが、住んでいる地で、その豊かさを感じながら、豊かに自分の時間を大切にして暮らす地域づくり。
- 住んでいる地の食材、食文化等を大事にして、家族で楽しく暮らす地域づくり。
- 人の温かさを感じるコミュニティのつきあい・地域づくり。
- 都会の人が「安らぎ」「心の落ち着き」を求めてやってくるような地域づくり。
→観光、農業、自然、グリーンツーリズム、環境等の多くの分野との連携
→Uターン・Iターン・Jターンの促進
- 地域を支える「人」づくりを進める。

●「観光」「農業」「教育」を核としたわき上がるような活力がある地域づくり

- 鳥取県の優れた潜在力を地域づくりに活かす。
- 大山ブランド、優れた食材、先端技術産業の製品などはじめとして、地域が「打って出る」時代を切り開く。
- 県と、県民の皆さん、企業、住民団体、大学、市町村等の様々な主体とが連携・協働して地域の発展に向けた取組みを進める。
- 地域を支える「人」づくりを進める。

(4) 鳥取県の位置付け、鳥取県と都会との関係を考える。

- 今後の鳥取県の存在意義、鳥取県らしさを考える。
- 今後、鳥取県と都会との関係をどのように考えていくか。
- 鳥取県の特性を活かし、また、今後の鳥取県の「核」を研ぎ澄ましていくことにより、都会からも人を呼び込める。

(5) 分権・自立と連携・協働の視点を持つ。

○分権のより一層の推進や、県内に浸透してきている自立を大前提として、財政状況の厳しさも踏まえ、行政と県民の皆さん、企業、住民団体、大学、市町村等の様々な主体とが、お互いにネットワークを張り、情報を共有して、連携・協働していく。

5 鳥取県の目指す方向性について

- (1) 所得水準や市場原理による効率性だけでなく、高い生活満足度や、トータルな生活の質の高さ・豊かさという視点を持った地域づくりを進める必要がある。
- (2) トータルな生活の質の高さ・豊かさを持つとは言っても、それを地域内だけで大事にしておくのではなく、他の地域に打って出るとともに、他の地域との交流を進める。開かれた交流を進めていくことにより、更に質の高さ・豊かさが向上していく。
- (3) このような、開かれた交流を通じた質の高さ・豊かさの向上を進めていくためには、これを担い、地域を支える「人」づくり・人材の養成が大切である。

6 「生活の豊かさが実感できる県づくり」を進めるための取組み

(1) 主要な柱

① トータルな生活の質の高さ・豊かさの視点を持った地域づくりができています

【産業振興・雇用】

- 県内外への販路を拡大するとともに、県内企業の高付加価値化を図るなど、商工業の振興を図る。
- 地域の実情に応じ、消費者のニーズに対応した農林水産業の振興を図る。
- 新たな観光資源の魅力づくりを進め、観光客のニーズに対応した観光振興を図る。
- 雇用のミスマッチの解消等に取り組み、県内における雇用機会の確保を図る。

【定住人口の増・新しい住民を増やす取組み】

- 誰もが就職できる環境を整備し、県内出身者の県内就職を図るとともに、さらに、Uターン・Iターン・Jターンの促進等に取り組むことにより、定住人口の増加を図る。
- ふるさとへの回帰や二地域居住などの新しい住民を増やす取組みを市町村と連携して進める。
- 新しい住民を増やすためには、農林水産業と商工業・観光とが連携して、地域主導型・民間主導型の取組みを進めることが重要。(例えば、クライナガルテン(滞在型市民農園)など)

【一例として「スローライフ」的な姿づくり】

- 生活・暮らしの豊かさが実感でき、都会からも「鳥取県に行けば、安らぎ・心の落ち着きを取り戻せる」と思われるような地域づくり・生活風土づくりを進める。

【ひとつの「核」としての農業・食】

- 農業県である鳥取県の特長も活かし、体験農園等の農業、グリーンツーリズム等を活用した、人が交流する地域づくりを進める。
- 県内の美しい環境の中で大切に育てられたすばらしい多数の食材をトータルに提供し、「食のみやこ鳥取」を実現。

【自然・温泉・環境】

- 豊かな自然・温泉を活かし、また、自然環境の保全・再生を進め、「安らぎ」「心が落ち着く」地域をつくる。
- 県民一人一人が環境に配慮しながら生活する、鳥取県型ライフスタイルを推進する。
- 良好な景観の保全と創出による潤いのある豊かな生活環境の整備を図る。

【福祉・医療】

- 誰もが、安心して、健康でいきいきと暮らせる社会づくりを進める。
- 地域福祉を支えるため、地域で支え合うネットワークを形成する。
- 医療提供体制の整備・確保を図る。

【歴史・文化芸術】

- 県内外に、鳥取県の歴史及び史跡等の関連情報を発信し、県民が歴史を再認識するとともに、県外客の誘致も図る。
- 広く県民が芸術文化に触れる機会の拡充を図る。

【多様な分野との連携】

- 県内外において、様々な取組みをしている多様な主体との連携を進める。
- 観光、産業、農業等をはじめとする多様な分野が連携し、新たな地域づくりの仕組み・広がりをつくる。
 - ・多様な分野が連携することにより、新たに産業の振興・活性化が図られ、雇用が創出し、人材が育ち、地産地消にもつながるなど、好循環を生み出す。
- 農業や関連分野へ優秀な人材を輩出する高等教育機関やその他の関係機関との連携を進める。

② 県内外の交流が進んでいる県

【交流資源の再認識】

- 豊かな自然、温泉、歴史、芸術文化、食、建築物、伝統技能等の全てが県内外の交流を進めるための資源
- 自然や環境に配慮したまちづくりや、多様な主体が協働連携して進めるまちづくり・地域づくり、「スローライフ」の地域づくりなどの取組みも、交流資源に。
- これらの交流資源を活用し、県内外の交流を推進する。

【観光】

- 既存の観光地・観光資源だけではなく、県外観光客が滞在できる新たな観光資源の魅力づくりと効果的な情報提供・PRを行う。また、ソフト面の課題解決・充実も図る。
- 三徳山については世界遺産登録、山陰海岸については世界ジオパークネットワーク加盟を目指す。

【国際交流】

- 他県との連携や民間との協働により、北東アジア地域をはじめとして、国際交流を深め、国際観光客の誘致を進める。

【物流(流通)】

- 高速道路等の基盤整備を踏まえ、物流(流通)の活性化を図る。

【交通基盤の整備等】

- 交通基盤の整備により、「人」「物」の交流を推進する。
- 県外からの観光客の二次交通の利便性の確保を図る。

【多様な分野との連携】

- 県内外において、様々な取組みをしている多様な主体との連携を進める。
- 観光、産業、農業等をはじめとする多様な分野が連携し、新たな交流の仕組み・広がりをつくる。
 - ・多様な分野が連携することにより、新たに産業の振興・活性化が図られ、雇用が創出し、人材が育ち、地産地消にもつながるなど、好循環を生み出す。
- 高等教育機関等とも連携し、「県内外の交流の推進」を進める人材の育成を図る。

③ 地域を支える「人」づくりが進んでいる県**【多様な分野を支える次世代の「人」づくり】**

- 商工業、観光、農業等をはじめとする多様な分野を支える「人」づくり、次世代を担う人材の育成を進める。

【高等教育機関】

- 高等教育機関は、地域への人材の輩出等、地域への貢献・地域とのつながりを一層強める。

【学校教育】

- 「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育を推進する。
- 学力向上のみならず、道徳・規範意識を醸成する。
- 鳥取県を支える人材を育てるため、学校と企業との産学協同連携を進める。

【地域力等】

- 家庭の教育力の二極化や地域の教育力の低下、青少年を取り巻く環境の変化等を踏まえて、行政と家庭・地域との連携等を図る。
- 地域コミュニティに対する住民意識や、行政・地域の枠組みの変化に対し、地域住民自らが地域の諸課題の解決方策を考えなければならない時代であることを踏まえ、地域の問題を住民自らが解決できるよう、生涯学習を推進する。

(2) 重要テーマ

① 産業の振興、雇用の確保

- 県内外への販路を拡大するとともに、県内企業の高付加価値化を図る。
- 県内で働く意思を持つ学生の希望がかなうよう、雇用の確保を図る。
- 高度な技術・能力を持った人材の育成・確保を図る。
- 若者の意欲・発想を活かし、商店街の活性化を図る。
- 女性や高齢者が働きやすい環境をつくる。
- いろいろな関連分野との連携を図る。

② 安全安心に、共にくらす社会

- 誰もが、安心して、健康でいきいきと暮らせる社会づくりを進める。
- 地域福祉を支えるため、地域で支え合うネットワークを形成する。
- 医療提供体制の整備・確保を図る。
- 人権意識（思いやり）の醸成と、人権尊重の社会づくりを推進する。
- 男女共同参画社会の実現を図る。
- 食の安全、防災・治安など、あらゆる分野で安全安心に暮らせる地域づくりを推進する。

③ 自然や環境に配慮したまちづくり

- 自然環境の保全・再生のための活動を推進する。
- 良好な景観の保全と創出による潤いのある豊かな生活環境の整備を図る。
- 廃棄物を出さない持続可能な社会の実現を図る。

④ 地域に応じて考えるコンパクトなまちづくり

- 高齢化が更に進むことを念頭に置き、自動車を使わず、歩いて暮らせるまちづくりを進める。
- 地域の特性に応じ、駅前商店街等の旧来の市街地中心部の再生と郊外市街化の抑制を図る。
- 旧来の市街地中心部における空き店舗の流動化などにより、賑わいを取り戻す。
- 中山間・過疎地域に居住される方や高齢者などにとって、日常生活の利便性が損なわれることのないようなまちづくりを進める。

⑤ 多様な主体が協働連携して進める地域づくり・まちづくり

- 地域づくり、まちづくりのあらゆる場面において、県民、企業、NPO等との協働を推進する。
(例) 県民との協働による河川、道路等の環境保全ボランティア